

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成 15 年 1 月

病害虫防除技術情報

No.14 - 1

岩手県病害虫防除所

イネばか苗病菌の各種種子消毒剤に対する感受性の現状

- 1 S55 ~ H14 年にかけて、県内各地から育苗期及び本田でイネばか苗病発病株を採集・分離した菌株について薬剤感受性を検定した。
- 2 ベノミル耐性菌出現割合は依然として高率で推移している。
- 3 EBI 剤 (ペフラゾエート、プロクロラズ、イブコナゾール) に対する薬剤感受性の低下は認められなかった。

1 検定方法

(1) 供試薬剤

ベノミル：ベンレート水和剤 (S55 ~ H3, 7 ~ 9, 11 ~ 14 年)

EBI 剤

- ペフラゾエート : ヘルシード水和剤 (H6, 7, 13, 14 年)
- プロクロラズ : スポルタック乳剤 (H6, 7, 13, 14 年)
- イブコナゾール : テクリード水和剤 (H6, 7, 13, 14 年)

(2) 供試菌株

県内各地から育苗期及び本田でイネばか苗病発病株を採集し、分離したものを供試した。なお、供試菌株数は年次により異なる。(9 ~ 564 菌株)

(3) 調査方法

PSA 平板培地で 7 ~ 10 日間培養した菌株を、コルクボーラーで打ち抜き、各濃度に調製した薬剤を添加 (無添加を含む) した PSA 平板培地に移植した。5 日間培養後に菌糸伸長の有無を調査し、MIC (最小生育阻止濃度) 値を求めた。

2 薬剤感受性検定結果

ベノミル剤：耐性菌^(注1)出現割合は、昭和 63 年以降、おおむね 9 割以上の高率で推移しており、低下する傾向は認められない。今年度は、分離された 35 菌株全てが MIC 値 1,000ppm 以上のベノミル耐性菌であった。(図 1)
(注1:ここでは、MIC 値が 1,000ppm 以上の菌株を耐性菌と判定した。)

E B I 剤：ペフラゾエート、プロクロラズ、イブコナゾールに対する MIC 値は、いずれの菌株とも 3.12ppm 以下で薬剤感受性の低下は認められておらず、これらの薬剤のイネばか苗病菌に対する防除効果は低下していないと考えられる。(図 2)

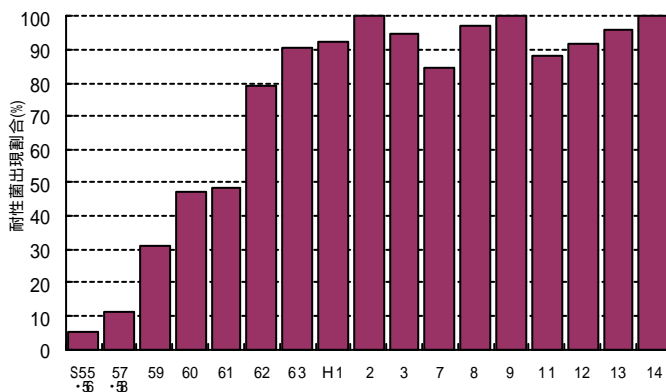


図 1 ベノミル耐性菌出現割合

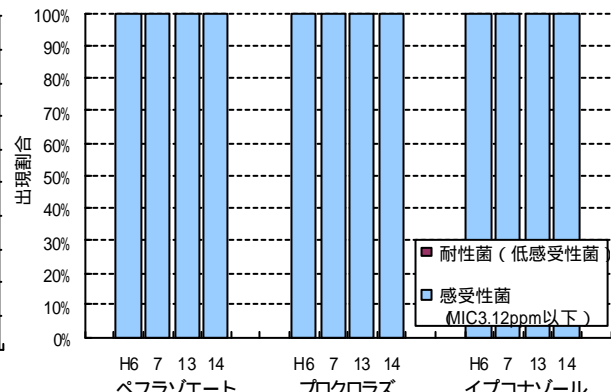


図 2 各種 EBI 剤に対する感受性検定結果